

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 一宮市立宮西小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒491-0044

愛知県一宮市大宮4丁目5番33号

E-mail : miyani-e@city.ichinomiya.aichi.jp

Website : http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~miyani-e/

児童生徒数：男子 345名 女子 345名 合計 690名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

① 国際理解

○ 世界一大きな授業（第5・6学年）

授業では、プレゼンテーション教材とワークシートを用いて行い、学校に通いたくても通えない子どもたちの現状をクイズ形式で学ばせたり、実際に字が読めないことで生じる困難の例を体験させたりすることで、学校で勉強する必要性を味わわせた。

「世界一大きな授業」を通して、支援に対する児童の意識を高めることができた。高めることができた児童の意識を無駄にしないためにも、文房具などの物資の支援や世界寺子屋運動への参加など、児童が考えた具体的な支援策を実行するための方法を、学校や地域全体で考えていくことが必要である。今後も参加して、国際感覚豊かで行動力のある児童の育成を目指して取り組んでいきたい。

○ ニュージーランド国際交流（第1・3・5学年）

ニュージーランド人講師の話聞き、外国の行事や習慣を知ったり、異なる文化をもつ人と交流したりすることを通して、国際理解の基礎を養った。

○ イタリア国際交流（第2・4・6学年）

イタリア人講師の話聞き、外国の行事や習慣を知ったり、異なる文化をもつ人と交流したりすることを通して、国際理解の基礎を養った。

○ 国際交流デー（全学年）

本校は、日本語学校に通う様々な国の学生（IC NAGOYA）の学生と交流を行う「国際交流デー」があり、児童が外国の文化に直接触れる貴重な機会となっている。児童は、日本の文化である折り紙を一緒に折って学生にプレゼントしたり、相手の国のゲームを一緒にしたりして、楽しみながら外国の文化に親しむことができた。

○ 伝統文化体験（第6学年）

・ 雅楽鑑賞

本校校区内にある真清田神社から職員を招き、雅楽を演奏してもらった。児童は、雅楽鑑賞を通して、日本の伝統文化に親しむことができた。

・ 茶道体験

地域の方々を講師に招き、実際に茶道の立居振舞、礼法、点前を児童は学んだ。茶道具に触れ、学習意欲を高めるとともに、茶道に込められた日本の文化に親しむことができた。

② 平和・人権

○ アフリカへ毛布を送る運動（全学年）

生活に苦しむ人たちに対して自分たちにできることはないかと児童会役員・代表委員で話し合い、この運動を行った。ポスターを作成したり、呼びかけ強化週間を作って毎朝正門に立ち、全校児童に呼びかけたりするなど自主的に取り組んだ。この活動を通して、生活で苦しむ人たちのために貢献しようとする気持ちを育てることができた。

○ 宮西小人権週間（全学年）

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、平等である」とする人権尊重の理念を理解させ、思いやりの心を持ち、自他共にかけがえのない命を大切にする行動について、いじめ防止との関わりをもたせながら啓発活動を行ってきた。

人権週間での取り組みとして、学校全体でいじめについて考えるDVDを視聴した。また、学校全体でいじめストップ運動を行い、各学級でスローガンを考え、いじめストップ宣言を行った。その他にも、「いじめをノックアウト」に提出した「100万人の行動宣言」の用紙を昇降口や教室に掲示したり、「人権を理解する作品コンクール」に参加したりした。

○ エコキャップ運動（全学年）

年間を通してペットボトルキャップの回収を行った。各教室にエコキャップボックスを設置したり、委員会の児童がポスターや昼放送で啓発を行い、回収した結果をポスターで紹介したりすることで、進んで参加する児童の姿が多くなった。

全校集会では、ワクチン支援を行っている団体に、集まったキャップを贈呈する機会を設けた。その際、中国の貧困情勢を紹介していただくことで、児童は他国の状況を理解することができた。

③ 環境

○ 緑のカーテン（第4学年）

本館南側1階から2階にかけて、ツルレイシ・アサガオ・フウセンカズラなどの植物を育て、緑のカーテンを作った。南からの直射日光を避けることができ、また実のなる植物を使ったことで、その楽しさを味わうこともできた。また、4年生を対象に「緑のカーテン出前授業」を取り入れた。緑のカーテンによって温度が大きく違ってくると実験から体験的に学び、環境問題や緑のカーテンによる効果について、理解を深めさせることができた。

○ リサイクル活動（全学年）

・ アルミ缶回収

毎月2回アルミ缶回収を行っている。集まった量やアルミ缶回収の様子は、児童会役員から全校児童に放送やポスターで成

果を発表し活動の大切さを理解させた。

・ **資源ごみ回収（リサイクルボックスの設置）**

資源として再利用できる名刺サイズ以上の大きさの古紙を入れる箱(リサイクルボックス)を各教室に設置し、たまった古紙を委員会の時間に回収し、古紙の量を調べた。この活動により、むやみに紙ごみを増やすことはなくなり、リサイクルの意識が高まった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）